

## 令和8年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

1. 大阪府内で初の教育系専門学科である教育文理学科(単科)を有する高校として、高い志を持ち、次世代の大阪を創生する人材を育成する。
2. 主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、課題解決力、情報活用能力、未来を切り拓く創造力を育成し、自律する生徒を育成する。
3. 幼稚園や小学校、中学校などの教育機関における現場実習や地域・企業と連携した体験実践学習をおこなうとともに、対話や協働・体験を通して教育や英語、自然科学や情報といったそれぞれの分野で将来リーダーシップを育成・発揮できる探究活動の充実に取り組む。

## 2 中期的目標

1. 「自らの問いを持って学び、科学的・論理的にアプローチすることで、解決につなげる力」の育成
  - (1) 探究的な学びを通じて、主体的・対話的な授業づくりを学校全体で推進し、生徒の学ぶ意欲を高め、自ら学び続ける姿勢を育成する。
    - ア 授業において、問いをもって学ぶことで当事者意識を持ち、自らの意見を形成し、多様な他者との対話を通じて最適解を導く。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育活動を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R5:93% R6:94% R7:96%)
  - (2) コミュニケーション能力、情報活用能力、問題解決能力、未来を切り拓く創造力、並びに情報リテラシーを教科横断的な視点に基づき育成する。
    - ア 探究活動において、STEAM の視点を持ち、「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体へ広げる。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育探究」等の探究活動において、主体的に参加し、目的意識をもって取り組むことができている」の肯定的回答 90%以上を維持。(R6:93% R7:95%)
  - (3) 生徒が体系的・計画的に学習をすすめていけるよう、ICTの活用を充実させる環境づくりを推進する。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校は1人1台端末を効果的に使用し、積極的に ICT 機器を活用しようとしている。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R5:95% R6:94% R7:95%)
  - (4) 学校図書館をはじめとする教育資産を活用し、視野を広げ、自らの生き方を考えることができる環境整備を進める。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R5:90% R6:85% R7:91%)
2. 「多様な他者と対話し、主体的に学校づくりに関わる中で、人権を尊重し相互理解に努める力」の育成
  - (1) 学校行事、部活動などへの参加を通じて、人や社会とのつながりを考え、自己の可能性を伸ばし、よりよく他者と共生し社会に参画する態度を養う。
    - ア 生徒が主体となり、学校行事や部活動等に関与できるよう、生徒会活動を活性化させる。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発であり、生徒が主体的に学校行事等に参加できる」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:79% R6:87% R7:90%)
    - イ 校則に関して、生徒が主体となって考えることができる場をつくり、生徒自身が考え行動し、自主的に取り組めるよう努める。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断において「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:77% R6:81% R7:85%)
      - ※ 保護者向け学校教育自己診断「学校の生徒指導の方針に共感できる。」の肯定的回答率 85%以上を維持。(R5:83% R6:86% R7:91%)
    - ウ 人権尊重の学校づくりを進め、人権教育及び人権啓発に関する正しい理解を深めるために外部講師を招いた講話の実施とともに、いじめを防ぐ取組を積極的に行う。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的回答率 90%以上維持(R5:90% R6:95% R7:93%)
      - ※ 教職員向け学校教育自己診断「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:93% R6:83% R7:76%)
  - (2) 心身の健康と安全確保について、生徒が自分自身だけでなく、他者に対しても説明したり働きかけたりすることができるようになるための教育を推進する。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」の肯定的回答率 85%以上を維持。(R5:86% R6:84% R7:87%)
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「防災訓練等を通じて、災害時にどのように行動したらよいか理解している。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:70% R6:82% R7:94%)
3. 「校内外の実践的な経験を積み重ねることで、リーダーシップをはぐくみ、未来の社会を創造する力」の育成
  - (1) 保護者や地域住民、地方公共団体の職員、民間の担い手と共に、持続的に発展していく関係を築く。
    - ア 北区を中心とした近隣校との異校種間連携を充実させ、地域の子どもと共に学び、その成長を支援する環境を創出する。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断において「授業や部活動、学校行事などを通して、ほかの学校や幼稚園・保育園などと交流することがある。」の肯定的回答率を 80%以上にする。(R5:77% R6:74% R7:79%)
  - (2) 姉妹校との国際交流を充実させ、国際的な視野を養い、他の国や文化を尊重し、高い志を持ち未来を切り拓く主体性のある人物の育成に努める。
    - ア 姉妹校との交流を深め、多様な文化を享受する取り組みを実施するとともに、外部講師を招聘して多文化理解を充実させることで、生徒たちが主体的に異文化に触れ、多文化共生の意識を育む。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「国際交流が充実しており、多様な視野や価値観を得られる環境にあると感じる」の肯定的回答率 90%以上を維持(R6:95% R7:97%)
  - (3) 高大連携行事を充実させ、将来の目標に向かって主体的かつ積極的に行動する力を育成する。
    - ア 連携する大学はもちろん、コンソーシアムなどの組織を活用し、府立高校と横のつながりを意識した取組を進めることで、多角的な視点を持つ。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「高大連携事業や外部との交流が、自分の知識を広げ、進路選択に役立っていると感じる。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:79% R6:84% R7:86%)
  - (4) 進路支援を充実させ、将来を切り拓く力を育成する。
    - ア 生徒が主体となり、理想の学校や社会を考える中で、多様な他者との対話や体験を通じて、自分の進路について明確化する。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答率 80%以上を維持。(R5:88% R6:89% R7:95%)
    - イ 進路講話や説明会など、進路行事を系統的に実施し、文系・理系それぞれの分野で将来リーダーシップを発揮できるよう、新たな経験に積極的に挑戦し、未来を切り拓くための創造力を養う。
      - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「進路についての情報を知らせてくれ、きめ細やかな進路指導がなされている。」の肯定的回答率 90%以上を維持。(R5:84% R6:90% R7:92%)

ウ 講習や補習、学習強化期間などの学習支援を充実させ、生徒が積極的に進路開拓に向けて努力する環境を提供する。  
 ※ 国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・外国語系大学)の現役延べ合格者数120名以上をめざす。(R6:102名 R7:113名)

4. 「チーム桜和」で進める、共創型学校運営の実現

- (1) スクールミッションやスクールポリシー等のビジョンを明確にし、特色ある教育の実現にむけて、対話を通じて協働的な学校運営を進める。
  - ※ 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」の肯定的回答率80%以上を維持。(R5:93% R6:91% R7:76%)
  - ※ 保護者向け学校教育自己診断「学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。」の肯定的回答率90%以上を維持。(R5:98% R6:98% R7:96%)
- (2) 学校の特色について、教職員間における共通認識に基づく広報活動の充実を図るとともに、保護者や地域等との連携を推進する。
  - ※ 教職員向け学校教育自己診断における「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」の肯定的回答率90%以上を維持。(R5:100% R6:98% R7:98%)
  - ※ 保護者向け学校教育自己診断「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」の肯定的回答率80%以上を維持(R5:82% R6:84% R7:84%)
  - ※ 保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について可視化され、HP等を利用し提供の努力をしている。」の肯定的回答率90%以上を維持(R5:90% R6:93% R7:93%)
- (3) OJTや教育センター等の研修を活用し、授業や生徒支援の専門性を高める。
  - ア 校内研修や相互授業見学週間、研究授業等の充実を通して、授業改善の取り組みを推し進める。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多く、学習意欲が高まった。」の肯定的回答率80%以上を維持。(R5:83% R6:83% R7:86%)
  - イ 教育文理学科の特色を最大限発揮するため、連携大学をはじめ各大学と連携し、実践研究を推進する。
    - ※ 教職員向け学校教育自己診断における「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」の肯定的回答率90%以上を維持。(R5:90% R6:91% R7:96%)
- (4) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、働き方改革を推進する。
  - ア 校務運営について業務の見直しやICT等を活用した校務の効率化により、生徒と共に余白を創出し、教職員の豊かな学びに繋げる。
  - イ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を踏まえた部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、指導・運営体制を構築する。
  - ウ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化し、「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえた生徒・教職員の健康・安全管理体制の充実を図る。
    - ※ 教員一人あたりの時間外在校等時間を、月平均45時間未満、年間平均360時間以内にすることを維持する。
    - ※ 教職員向け学校教育自己診断における「事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。」の肯定的回答率80%以上をめざす。(R5:100% R6:93% R7:78%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1. 解決につながる力の育成	<p>(1) 探究的な学びによる科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習</p> <p>(2) 教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力、情報活用能力等の育成</p> <p>(3) ICTの活用を充実させる環境づくり</p> <p>(4) 学校図書館の活用ならびに教育環境の整備</p>	<p>(1) ア 授業において、問いをもって学ぶことで当事者意識を持ち、自らの意見を形成し、多様な他者との対話を通じて最適解を導く授業展開にする。</p> <p>(2) ア 「教育探究」をはじめとする探究活動において、STEAM の視点を持ち、「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学びを全体へ広げる取組を進める。</p> <p>(3) ・教職員ICT委員会、生徒ICT委員会を常設し、通信環境の整備と1人1台端末の効果的な使用方法の共有を図るため、ICT活用研修を年2回以上実施する。</p> <p>(4) ・学校図書館等の教育資産を活用し、視野を広げ自己の生き方を考察させ、学習意欲の向上を図るため、学校図書館の教育環境を整備する。 ・ビブリオバトルを通じて、本に対する興味関心を引き出すよう取り組むとともに、各種プレゼンに取り組む。</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「教育活動を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた。」の肯定的回答率90%以上を維持。 [96%]</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「「教育探究」等の探究活動において、主体的に参加し、目的意識をもって取り組むことができている。」の肯定的回答率90%以上維持する。[95%] ・第2次大阪府教育振興基本計画 前期事業計画に基づく意識調査「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」の肯定的回答率90%以上維持する。[91%]</p> <p>(3) ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は1人1台端末を効果的に使用し、積極的にICT機器を活用しようとしている。」の肯定的回答率90%以上維持する。 [95%]</p> <p>(4) ・生徒向け学校教育自己診断における「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。 [91%]</p>	
2. 人権尊重・相互理解に努める力の育成	<p>(1) 学校行事、部活動などへの参加を通じて、人や社会とのつながりを考え、自己の可能性を伸ばし、よりよく他者と共生し社会に参画する態度の養成</p> <p>(2) 心身の健康と安全確保について生徒が説明したり働きかけたりすることができるようになるための指導の充実</p>	<p>(1) ア ・生徒が主体となり、学校行事等に関与できるよう、生徒会活動を活性化させる。 ・部活動に対して、生徒が主体的に関与し、意欲をもって取り組む環境づくりを推進するため、外部との積極的な交流を図る。 ・学期に1回のクラブ表彰の実施や大会以外の発表の場を年に1回は必ず設け、生徒・顧問のモチベーションの維持に寄与する。</p> <p>イ 校則に関して、生徒が主体となって考えることができる場をつくり、生徒自身が考え行動し、自主的に取り組めるよう、ルールメイキングや教育カフェなどの機会を創出する。</p> <p>ウ ・人権尊重の学校づくりを進め、人権教育及び人権啓発に関する正しい理解を深めるために外部講師を招いた講話の実施とともに、いじめを防ぐ取組を積極的に行う。 ・いじめ等や生活指導上における事象が発生した時の組織的な対応を進める。 ・18歳成人を踏まえ、消費者・主権者教育の推進のために、外部機関等から講師を招き講演会を年1回以上開催する。</p> <p>(2) ・衛生管理や救命救急に関する指導のため、校内において救命講習用人形やAEDトレーナーを常備し、生徒・教員対象の救命救急講習会をともに1回ずつ設けて、生徒に知識とスキルを身につけさせる。 ・薬物乱用防止教室、交通安全教育等に広い視点で取組み、生徒の知識とスキルを高めるため、外部講師を招く講演会を年1回以上実施する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携により、課題を抱える生徒への理解を深め、対応の方法等知識を高めるための教員研修を年1回以上実施する。 ・中退・不登校・進路選択の不安・高校生活に関する諸課題について、スクールカウンセラーと連携しながら、定例の検討会を開催する。 ・有事において適切な行動をとるため、防災訓練等を実施する。</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は、活発であり、生徒が主体的に学校行事等に参加できる」の肯定的回答率80%以上を維持。[87%] ・生徒向け学校教育自己診断における「学習と部活動の両立に向けて取り組んでいる。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[88%]</p> <p>イ ・生徒向け学校教育自己診断において「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の肯定的回答率 80%以上を維持。[81%] ・保護者向け学校教育自己診断「学校の生徒指導の方針に共感できる。」の肯定的回答率 85%を維持する。 [91%]</p> <p>ウ ・生徒向け学校教育自己診断における「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対してくる」の肯定的回答率80%以上を維持する。 [94%] ・教職員向け学校教育自己診断における「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。 [98%]</p> <p>(2) ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的回答率80%以上を維持する。[93%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「悩みや相談に親身になってくれる先生が多い。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[86%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「防災訓練等を通じて、災害時にどのように行動したらよいか理解している。」の肯定的回答率80%以上を維持する。 [94%]</p>	

<p>3. リーダーシップをはぐくみ、未来の社会を創造する力の育成</p>	<p>(1) 保護者や地域住民、地方公共団体の職員、民間の担い手と共に、持続的に発展していく関係の構築</p> <p>(2) 姉妹校との国際交流を充実させ、国際的な視野を養い、他の国や文化を尊重し、高い志を持ち未来を切り拓く主体性のある人物の育成</p> <p>(3) 高大連携行事を充実させ、将来の目標に向かって主体的かつ積極的に行動する力の育成</p> <p>(4) 進路支援を充実させ、将来を切り拓く力を育成</p>	<p>(1) ア・北区を中心とした近隣校との異校種間連携を充実させ、地域の子どもと共に学び、その成長を支援する環境を創出する。 ・「教育ボランティア」にて積極的に異校種間連携ならびに教育関連施設において体験実習を行う。また、「教育体験」実施校との連携を進める ・支援学校との交流を年に1回以上実施する。</p> <p>(2) ア・姉妹校との交流を深め、多様な文化を享受する取り組みを実施するとともに、大学や外部機関から講師を招聘して多文化理解を充実させることで、生徒たちが主体的に異文化に触れ、多文化共生の意識を育む。 ・ICT等を活用し、姉妹校等とのリアルタイムな交流を1回以上実施する。 ・英語の運用能力を高めるため、英検指導を推進する。</p> <p>(3) ア・連携する大学はもちろん、コンソーシアムなどの組織を活用し、府立高校と横のつながりを意識した取組も進めることで、多角的な視点を持つ。 ・連携授業を年10回以上実施する。 ・探究学習の成果発表の場として、探究EXPO等、保護者や他校生徒など外部を招いた発表会を連携大学で実施する。 ・インターンシップ等に大学生を招き、生徒との積極的な交流を図る。</p> <p>(4) ア 多世代交流の場である Pre-MIRAGE やアントレプレナーシップ教育に関する取組など、生徒が主体となり、理想の学校や社会を考える中で、多様な他者との対話や体験を通じて、自分の進路について明確化する。  イ 進路講話や説明会など、進路行事を系統的に実施し、文系・理系それぞれの分野で将来リーダーシップを発揮できるよう、新たな経験に積極的に挑戦し、未来を切り拓くための創造力を養う。  ウ 講習や補習、学習強化期間などの学習支援を充実させ、生徒が積極的に進路開拓に向けて努力する環境を提供する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断において「授業や部活動、学校行事などを通して、ほかの学校や幼稚園・保育園などと交流することがある。」の肯定的回答率を80%以上にする。[79%]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における「国際交流が充実しており、多様な視野や価値観を得られる環境にあると感じる」の肯定的回答率80%以上を維持する。[97%] ・英検1級～2級の新規取得者30名。[56名]</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断における「高大連携事業や外部との交流が、自分の知識を広げ、進路選択に役立っていると感じる。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[86%]</p> <p>(4) ア・生徒向け学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[95%]  イ・生徒向け学校教育自己診断における「進路についての情報を知らせてくれ、きめ細やかな進路指導がなされている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[92%] ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[81%] ウ・国公立大学及び難関私立大学(関関同立・産近甲龍・外国語大学)の現役延べ合格者数120名以上にする。[113名]</p>	
---------------------------------------	---	---	---	--

<p>4 「チーム桜和」で進める共創型学校運営の実現</p>	<p>(1) 特色ある教育の実現にむけて、対話を通じて協働的に進める学校運営</p> <p>(2) 学校の特色について、教職員間における共通認識に基づく広報活動の充実を図るとともに、保護者や地域等との連携を推進</p> <p>(3) OJT や教育センター等の研修を活用し、授業や生徒支援の専門性向上</p> <p>(4) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進</p>	<p>(1) 情報共有を促進し、教職員が課題解決のため、主体的にプロジェクトベースで学校運営を進める。</p> <p>(2) ・学校説明会を年5回以上、学校HPの更新回数を300回、・中学校への出前授業を10回以上実施し、中学校におけるキャリア教育へ積極的に貢献し、中学生やその保護者、地域に積極的に創意工夫を生かした魅力発信を行う。 ・生徒ボランティア(サクラティア)と共に広報活動を進める。 ・保護者参観weekを年1回設ける。</p> <p>(3) ア・校内研修や相互授業見学週間、研究授業等の充実を通して、授業改善の取り組みを押し進める。 ・教育センター等研修の活用、教材等のコンテンツや進路情報の共有を進め、業務の効率化を図るための情報環境を整備する。 イ・教育文理学科の特色を最大限発揮するため、連携大学をはじめ各大学と連携し、実践研究を推進する。 ・連携大学等から教授を招き、教育実践における最新の研究に関連する講義を年3回実施する。</p> <p>(4) ア ICTを活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 イ 部活動外部指導員の積極的な活用や部活動大阪モデルを通して、勤務時間の是正を積極的に図る。 ウ 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化を図り、生徒・教職員の自他ともに健康への配慮ができる態度を育て、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。</p>	<p>(1) ・教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」の肯定的回答率80%以上にする。[76%] ・保護者向け学校教育自己診断「学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。」の肯定的回答率90%以上を維持する[96%]</p> <p>(2) ・保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について可視化され、HP等を利用し提供の努力をしている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[93%]  ・保護者向け学校教育自己診断における「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の肯定的回答率80%以上を維持する。[84%]</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多く、学習意欲が高まった。」の肯定的回答率80%以上を維持。[86%] ・教職員向け学校教育自己診断における「この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[84%] イ・教職員向け学校教育自己診断における「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[96%] ・教職員向け学校教育自己診断の「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[100%]</p> <p>(4) ア・年間の時間外在校等時間720時間を超える教育職員をゼロにする。[ゼロ] ・教職員向け学校教育自己診断における「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。[100%]  イ・ウ・教員一人あたりの時間外在校等時間を月平均45時間未満にする。[26時間41分] ・教職員の年間1人当たりの平均時間外在校時間を360時間以内にとすること維持する。[320時間]</p>
--------------------------------	---	--	---